

文学の歴史と言語メディアのありようとの関係。19世紀英国における「性」の表象と文学を巡る関連研究。認知言語学的アプローチからの英語の分析ならびに類型論への考察、研究。世界における日本文学、日本文化など。

- 1) 言語メディアの歴史をテクノロジカルな面から眺めると言語に占める聴覚、視覚など感覚のバランスがその都度変遷していった様子が伺える。それらのバランスがヒトの感覚・思考をどのような方向に導き、更に文学表現の上でどんな特徴と結びついてくるかを英文学のコンテクストに沿って研究。
- 2) 20世紀文学研究で最も大きなテーマを成している「性」の視点を19世紀英国の文学に適用し、そこに現れた諸問題を考える。フェミニズム、男性性の問題などを目下取り上げている。
- 3) 言語は他の認知機構(思考、知覚等)と複雑に絡み合い、そこには人間の主体的な外界認識や思考過程が反映されているという認知言語学的な考え方に基づき、英語の分析並びにそのような発想の元でアジアの言語の発想を活かした形で類型論研究を行っている。こういった英語学・認知言語学・類型論研究の知見を授業に積極的に導入して、学生達の英語習得の助けにしている。
- 4) 日本文化を巡る諸問題のうちから、プレイジャリズム(「剽窃」)を取り上げている。